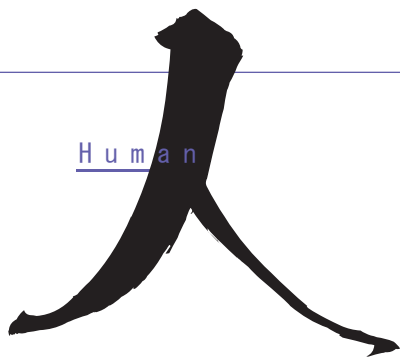
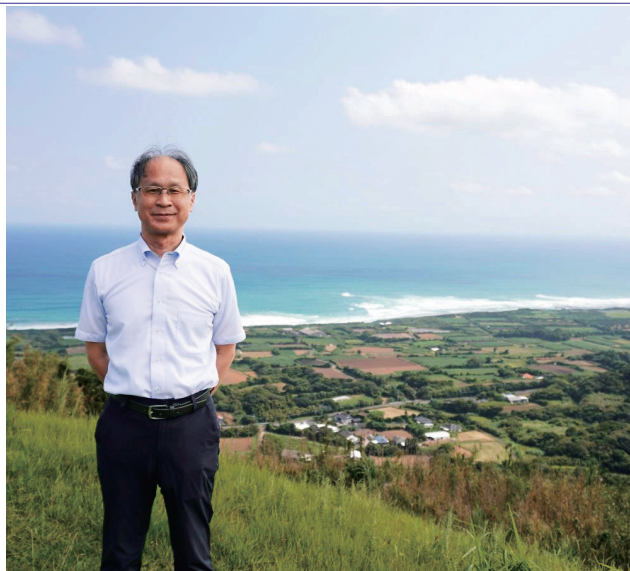




ビジネスコーディネーターとして

事業開発部 ビジネスコーディネーター
荒木 公友（あらき こうゆう）



エンジニアでした

大学院では機械工学を専攻し、1991年に三菱自動車工業株式会社に入社しました。当時はF1やWRCなどのモータースポーツも盛んで、クルマが好きで入社してくる人ばかりでした。入社して買った最初のクルマを、一般道や林道でタイムを競うラリー競技車に改造して、林道で練習走行をしたり、地方のラリー競技に参加したりしました。

愛知県岡崎市にある乗用車開発部門に配属され、約25年間、エンジン制御適合等を担当しました。エンジン制御適合では、実際にクルマを走らせて実験を行い、エンジン制御データをちょうど良い塩梅に調整します。

機械が相手なのに

アクセルを踏んだ時の加速をスムーズにするための適合では、加速しすぎ、もの足りないという違和感がないようにする必要があります。スポーツタイプやファミリータイプなどの違いを考慮して、運転するドライバーのことを想像しながら、ちょうどいい加減になるように加速フィーリングの味付けを行います。

機械であるクルマやエンジンを相手にしていながら、フィーリングに影響する適合においては、いつもそのクルマを運転する人のことを考えながら開発していました。

DIJON JAPAN WEEK（フランス）に参加した皆さん ▶
筆者は前列左から3番目

農研機構との出会い

2017年に熊本へUターンし、くまもと産業支援財団で2021年から3年間、九州産伝統的加工食品（茶・米粉・醤油・味噌・海苔など）輸出支援事業で企業がフランスへ輸出するための支援をしました。良いものだからといって棚に並べるだけで売れるということはありません。買ってもらうためにはフランス人の食嗜好性や食べ方を調査し、買いたいと思ってもらえるような商品づくりが必要となります。2023年10月にフランスDIJON市で日本文化を紹介するDIJON JAPAN WEEKが開催され、武道、盆栽、アニメ、伝統工芸品、食品などを紹介するイベントの中で、試食やセミナーを行いました。

農研機構は、この事業に現地の研究機関と連携した食嗜好調査や米粉・お茶の輸出拡大の取り組みで参画しており、これが農研機構との出会いになりました。

2025年1月に研究者と企業の橋渡しを行うビジネスコーディネーターとして採用され、九冲研合志研究拠点駐在となりました。支援機関のときのように企業のニーズ・困りごとをよく聞き、人との繋がりを大切にしていきたいと思います。

